

## 基本コンセプト（たたき台）

岐阜県花き振興に関する条例 基本理念

花きの活用による県民の心身の健康の増進及び豊かな人間性の涵養

	<p>H15.2 「園芸アカデミー基本計画」</p> <p>H19年度：包括外部 監査 ・上級マイスター科の恒常的 な定員割れ等あり方 を見直すよう指示</p> <p>H21.3：岐阜県行財 政改革指針 ・アカデミーを「抜本 的に見直す」施設とし て整理</p> <p>H21.4：国際園芸アカ デミー検討委 員会 ・「岐阜県の花と緑の産 業に寄与する学校」へ の見直しが必要</p> <p>H21.11:定例会 質問： ・国際園芸アカデミー の見直しについて 答弁：農政部長 ・今後のあり方につい て教育体系・内容に ついて見直しを検討 ・上級マイスター科も 見直しについて検討</p> <p>H22.2:岐阜県行財政 改革アクションプ ラン ・H23から上級マイス ター科の募集停止</p>	<p>H22.2 「園芸アカデミー見直しの方向」</p> <p>・基本理念は変更なし ・基本方針:「世界に通用する学校」か ら「岐阜県の産業に寄与する学校」 へ見直され、上級マイスター科が廃止</p>	<p>H23.2「アカデミー運営計画」 H30「自己評価報告書」 R1「パンフレット」</p> <p>・教育理念、教育目標を策定</p>	<p>論 点</p>
<p>基本理念</p> <p>花と緑の空間づくりによる健康でこ ころ豊かな生活の創造</p>		<p>花と緑の空間づくりによる健康でこ ころ豊かな生活の創造</p>		<p>・3コースの強み 花き生産、花き装飾、造園緑化の3コース網羅した教育はアカ デミーの強みであり、コンセプトとなるのではないか</p> <p>・この学校の特色は何であるのか、何が優位性であるのかを考え基本コン セプトを定める必要がある。【橘委員】</p> <p>・3コースを網羅した教育が受けられるのがアカデミーの強み。【上田委員】</p>
<p>基本方針</p> <p>①日本はもとより 「世界に通用する学校」 ・世界に通用するプロダクトデザ イナーの育成 ・海外の園芸学校等との交流及 び国内外の著名な教授陣の 招聘</p> <p>②花と緑の 「産業発展に寄与する学校」 ・実践重視の学習により花と緑の 産業を支える実務者の育成</p> <p>③他に例のない 「岐阜県独自の学校」 ・専門性を高めながら関連分野を 総合的に学ぶ岐阜県独自のカ リキュラム</p>		<p>「岐阜県の花と緑の産業に寄与する 学校」 岐阜県の花と緑の産業・文化に 貢献することを基本とし、花き産業 がグローバルに展開されている現 状に即し、国際的な視野を併せ持 つ人材を育成</p> <p>①花と緑の実践技術を習得した実務 者を育成する学校</p> <p>②花と緑の産業と連携した実践重視 の学校</p>	<p>[運営計画] ○教育目標 花と緑の産業界のニーズに 応えるべく、高度な知識や技 術を有し、産業を現場で支え る担い手としての活躍が期待 される実務者の育成</p> <p>[自己評価報告書] ○教育目標 花と緑に関する高度な知識 と技術を持ち、産業を現場で 支える担い手として活躍する 実務者の育成</p> <p>[R1パンフレット] ○教育理念 花と緑の産業と文化の発展 に寄与し、健康でこころ豊か な生活を創造できる専門的・ 総合的な知識と技術を修得し た人材の育成</p> <p>○教育目標 花と緑に関する高度な知識 と技術を持ち、産業を現場で 支える担い手として活躍でき る実務者の育成</p>	<p>・総合性か専門性か 教育内容について、総合的な知識・技術の充実か、専門性を追 求するのか、その両者を盛り込むのか</p> <p>・花業界の担い手育成は非常に厳しい。花生産+αが必要。【齋藤委員】 ・生産の担い手、生花店、造園業いずれの職業もマーケティングやICT活用、 経営分析能力は必須。利益が出なければ再投資はできない【磯村委員】</p> <p>・産業への貢献・文化への貢献 花と緑の産業に貢献は、さらなる方向性を検討か 文化に貢献は、文化を残すか、さらなる方向性を検討か</p> <p>・植物の物語や歴史等の知識を応用した商品プロデュースが必要【磯村委員】 ・基本方針にあるとおり花と緑の産業に寄与する学校にしなければならない 【松尾委員】 ・企業との連携を強化し、多くの就職先を確保することが魅力増進となる 【櫻井委員】</p> <p>・国際的な展開 H22に、「世界に通用する学校」から「岐阜県の花と緑の産業に 寄与する学校」に見直しが行われたが、「国際」を残すか</p> <p>・グローバルな視点を持ち、情勢に対応できる人材育成が必要【磯村委員】</p> <p>・実践重視の教育 実践重視の教育は必要でありこのままか、さらなる方向性を検 討か</p> <p>・生産現場を知っていることは園芸のあらゆる分野に携わる者の基礎であり 強みとなる【齋藤委員】 ・農業高校の進学先として、実践的な技能やプロフェッショナルな技術が身 につけられる場として大きな意義がある【田中委員】</p>